

## 札幌市環境プラザ運営協議会 平成30年度第1回実施概要

- 1 日時 平成30年5月22日(火) 19:00~21:00
- 2 会場 札幌エルプラザ公共4施設2階 会議室1・2
- 3 出席者
  - (1) 委員：伊井委員、新保委員、森岡委員、山本委員、早坂委員、齊藤委員
  - (2) 札幌市：環境局環境計画課環境教育担当係長、環境計画課推進係員
  - (3) 事務局：(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 市民活動担当課長、環境係長、指導員、サポートスタッフ、臨時職員

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 札幌エルプラザ公共4施設館長 あいさつ
- (3) 運営協議会について
- (4) 委員自己紹介
- (5) 座長選出
- (6) 議事
  - ・平成29年度報告
  - ・平成30年度事業計画
  - ・その他
- (7) 札幌市環境局環境活動推進担当課長 あいさつ
- (8) 閉会

### 5 議事概要

- (1) 平成29年度報告 事務局から平成29年度事業の報告を行った。

#### ●環境教育リーダー派遣制度について

Q 環境教育リーダー派遣について、さまざまな課題があるので制度を見直したということだが、課題解決の進捗状況はいかがか。

A これまでは参加者の人数が多い派遣に際し、一度に多数の環境教育リーダーを派遣することの難しさがあった。小規模グループへの派遣といった本来の形に戻していくことを念頭に、今年度から1回の派遣で対象とする参加者の人数や、環境教育リーダーの人数に一定のルールを設けた。派遣を依頼する事業主催者にも協力をいただきながら、派遣内容に応じての融通はできる範囲で図っていく。また、一つの団体が年間利用できる回数を2回とし、多くの団体が利用できるようにした。

年度が替わったばかりで、まだ派遣調整の段階であり、実績が少ない。今後こういった問題点が出てくるのか、検証していきたい。

#### ●学校への出前事業について

Q 一つの学校へ数年続けてビオトープをテーマに出前事業を行ってきたが、今年度も同様か。

A 4年間続けて関わってきたので、今後は環境教育リーダーの利用を紹介する予定。現段階では別の小学校との関わりは決まっていない。

【ご意見】

- 学校への出前事業については、段階的に自立してもらう部分と基本的な支援とバランスを取っていくことが大事である。環境プラザではビオトープでの活動についてノウハウが蓄積されたと思うので、今度どのように違うものに生かしていくかに興味がある。多くの事業等を行っている状況があるが、限界もあるので、積み上げたものから省力化し、効果を挙げていくと良いのではないかと。
- 一つの学校から他の学校への波及、もしくは担当の先生に引き継いでいくなどという手だてが今年度以降にできると良い。

(2) 平成 30 年度事業計画 事務局から平成 30 年度事業計画の説明を行った。

●評価について

【ご意見】

- 評価について、各事業がどういう評価につながっていくかという視点が見当たらない。環境プラザが実施する事業の中で、気づき、考えの変化を経て、行動に移ったものがどのようなものなのか、また、それがどのような評価になり、メリットになるのかが見えると、事業の意義につながる。全てではなくてもそういった事業があると良い。  
ネットワークや連携に関しては、ネットワークを作ることが目的となるのではなく、ネットワークを作ることによって次にどのような展開があり、どのような社会変化につながるかが見えると良い。

●指導者向け事業について

【ご意見】

- 指導者向け事業を、環境保全・交流の支援と推進業務に位置付けるのであれば、環境保全活動に結びつくことを目標に置き、指導者の交流の輪ができるところまでを目指すべきであり、評価の上でも大事なのではないだろうか。
- 事業を行い人と人をつないだ結果、何かが生まれ、次の活動につながるまでモニターすること、関わった人やつないだ人でコラボレーションが成立したのかどうか把握していかなければならないと思う。

●利用人数について

- Q 展示コーナー利用人数の累計は 39,353 人であるが、平成 30 年 1 月に改修を終え広いスペースができたことで利用しやすくなったが、受け入れ人数に余裕はあるか。
- A 見学に限ると、平成 29 年度は 52 件の利用があった。今年度増えるかどうかの見通しは立たず、何件まで受け入れられるという上限はないが、来場してもらうことが最優先であると考え。一度に対応できる人数をどのように増やしていくか、職員が展示解説等できない時に自由見学をどのように効果のあるものにしていくか、工夫が必要と考えている。
- Q 指定管理を担う上で、利用件数や人数などノルマが示されているとしたら、平成 29 年度の結果はおおむね妥当という評価か。
- A ノルマはないが、札幌市のアクションプランでは平成 31 年度に 71,000 人の利用という数字が挙げられている。

○ 展示コーナーの人数が自由見学で増えたのか、企画展に足を運んだ人が多くて増えたのか、他の要素で増えたのか、そうした手応えを把握することが重要ではないか。  
総合的な学習についても、見学の希望があったのに諸条件が合わず受け入れられなかったのであれば、ほかの事業の優先度を下げる提案ができるだろう。全て受け入れられていたとしても、その数が少ないのであれば、札幌市や教育委員会ともしっかり連携しなくてはならない、といったことが出てくる。そういったことを一年を通し、検証していくと良いのではないか。

Q 児童生徒の利用が多い月はいつか。

A 月ごとで言うと夏休み、冬休み以外の期間が多い。

総合的な学習での利用については、中学生のグループ学習や修学旅行の一環での利用もある。複数の学校で希望日が重複した場合に日にちの変更を提案することがあるが、その日でなければ、といった状況であればやむなくお断りする状況もある。

Q 夏休みや冬休みに家族で利用できるようなアイデアや、学校教育も家庭の協力なくしては効果が上がらないこともあるので、保護者も一緒に取り組めるものがあれば知りたい。

また、夏休みや冬休みの期間の有効な利用方法について検討するとより活用されるのではないか。

A 3年ほど前から2日間の日程で夏休み自由研究応援講座として街路樹を調べる事業を実施している。また、何年か前の冬休みにいろいろな団体にプログラムを実施してもらい、自由研究の参考にしてもらい取り組みを行った。これらはピンポイントの事業としての参加はあるが、日常の恒常的な来館にはつながらない。長期休みの終わりかけの時期に、自由研究をまだやっていないお子さんが、テーマを探しに来場し、写真を撮ったり勉強したりする姿が見られる。みんなが取り組む自由研究にアプローチすると利用につながることはあるので、今年度も実施を予定している。

Q 視覚支援学校の見学もあるようだが、展示物等を含めユニバーサルデザイン的なことを考えているか。

A 視覚以外でも体験できる既存のプログラムを活用するとともに、今後職員が展示を作る際には、視覚支援学校の先生にもご相談しながら工夫していく。

### 【ご意見】

○ 施設面だけではなく、提供するプログラムの中に、どんな背景の子どもたちでも楽しめる、学べることがあるということはSDGsにも関わる事柄だと思うので、積極的に推進することが環境プラザの姿勢を示すことにつながると思う。

### (3) そのほか

Q 今の時世では今後職員数が増えないことが予想されるが、いくつかの事業に力を入れていくために、何かを減らす計画はあるか。あるものの質を向上させるためにも、環境プラザのコンセプトに照らし合わせて関連しない事業があれば、削減していくことも必要ではないか。

A 限りある条件の中で、際限なく事業数を増やしていくことはできない。平成30年度は指導者向けの事業を通して、指導者が事業をするために環境プラザが支援をしていくことで、波及効果が生まれることを願っている。事業全体で見ると研究の余地はあると考えており、一定の成

果が出たものについては次の人たちにバトンタッチして、環境プラザは新しいことに取り組む姿勢も必要だと思っている。仲間と共に地域の課題を解決していく取り組みを体験すると、別なところでもやってくれるのではないかという見方もある。できる人と一緒に体験することが大きな影響力になると考えている。事業を減らすことは、新期の指定管理期間が始まったばかりなので現段階では考えてはいないが、今後そうしたことも考えていきたい。